

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所QUEST		
○保護者評価実施期間	2024年12月10日		2024年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2025年1月14日		2025年1月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月10日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	少人数の定員設定のため、一人一人の特性や課題に合わせた活動の中で、将来に必要な様々な基礎スキルを学ぶことができる。	スタッフとの1対1の作業や学習の場の他、面談を設定し、本人の得意不得意の整理、日常生活の把握を行っている。困り事や気になることがある時は、状況を整理し必要に応じて対応策を検討できるように支援している。	家庭連携を行い、本人へのアプローチ方法を検討する。
2	集団での活動に苦手さがある利用者に対して、少人数での活動の中で他者と交流する経験を重ねることができる。	レクリエーションや学習の場等を通して、他者との関わり方や場面に合わせた振る舞い方の練習を行っている。他者との交流に対して強い苦手さがある場合は、職員との活動や他利用者が活動している場を見学し、活動イメージが持てるように支援している。	一人一人の特性に合わせた設定で他者とのコミュニケーションの場を設定していく。また、集団の中で自己発信する場を設ける。
3	多機能型事業所（児童発達支援、放課後等デイサービス、自立訓練、就労移行支援）であるため、同年代以外の人との交流が経験できる。	児童発達支援はグループ活動、放課後等デイサービスは土曜開所の活動の中で、同年代の人との活動を設定し、社会生活で必要となる言葉遣いや振る舞い等について、定期的に振り返りを行い、次の活動の場に活かせるように支援している。	活動等の振り返りを行い、目的を持って活動に参加できるように支援する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用頻度が一人一人のニーズに合わせた設定のため、利用曜日によっては、一人での活動となる。同年代とのコミュニケーションの場の設定が限られる。	自力通所又は家族の送迎での来所のため、通所手段が限られている利用者の場合、利用日数を増やす際には、家庭状況、本人のスキルとの調整が必要となる。	多機能型事業所の特性を活かし、活動の工夫を行う必要がある。また、将来の生活に繋がるように、一人一人に合わせた自力での通所を本人、家族等関係機関で検討していく必要がある。
2			
3			